

校報



水 緒

「知徳の方向 あやまらず 進め」

第 1327 号
(令和2年度 第10号)
洋野町立種市小学校
令和2年7月15日
児童数 227名

午前授業の日、学童に通う子でしようか。弁当を持っていました。「弁当ですか。いいですね。」に、「へへん」とうれしそう。おうちの方が作ってくださった弁当が自慢のようでもありました。

ウニウニ 631こ

～児童会発 あいさつの取り組み～

子ども達に、「みなさん自身の力で、この学校をますますよくして行ってほしい」というお話をしました。特に高学年の子ども達には、「どんどん手本を見せたり声をかけたりしてほしい」とも話しました。

そんな中で行われていた「あいさつの取り組み」。『あいさつモデル』となってくれる人が募集されて毎朝玄関に集まりあいさつ運動が行われました。また、「10回進んであいさつをしたらその記録として『ウニウニ』を1枚はる」ことにしたら、たくさんの『ウニウニ』が集まりました。取り組み最後の週、マリンホールに貼られたのが200枚台だったところが、ものすごい勢いで増え（取り組みが広がり）最終日には631枚。



始まりは、執行部の人達の「あいさつをよくしたい」という願いからでした。「今、種市小学校でよくしたいことは何か」を考え、全校の友だちに呼びかけました。呼びかけたら、こんなにも多くの人に参加し、輪が広がったのです。

取り組みが終わっても、うれしいあいさつが続いています。“先に”あいさつしてくれます。“遠くの方からも”してくれます。

こうやってよい方に変えたのは、子ども達自身です。「自分達には学校をよくする力がある」ということを、よーく覚えておいてほしいです。

こちらは、本当のうに“洋野町産うに”入り給食

7月9日は「うに入り給食」。洋野町産のうにが卵とじで入っていました。洋野町外の人から見れば、うらやましがられそうな超有名でおいしいうにです。子ども達に聞いてみました。「うにが入っていることに気が付いた人!?’」「はーい!!」大変おいしくいただきました。給食センターのみなさんありがとうございました。



ちょボラ 中庭の草取り




ボランティア委員会の声掛けで、中庭の草取りが行われました。はじめは委員会のメンバーで行おうとしたようですが、「ボランティアを広げるのが仕事」と全校に呼びかけました。そしたら、いろいろな学年が日が変わるとともに参加しています。決して全員ではありませんが、自分の時間があるとき、やろうと思ったときに参加する、まさに「ボランティア」が行われていました。こんな、ちょっとしたボランティア(=ちょボラ)が広がっていけばいいと願います。

柳杭田先生の紹介



紹介が遅れていました。お産のためお休みに入った5年1組の高橋美紀先生の代わりに先生として柳杭田知恵子先生が着任されました。以前本校にお勤めになった先生です。子ども達は元気な柳杭田先生から、たくさん勉強を教わっています。

担当・氏名	5年1組担任・柳杭田 知恵子
前任地 (出身地)	久慈市立小袖小学校 (久慈市)
	おとし、種小で世話になりました。また子ども達に会えてとてもうれしです。子ども達のために一生懸命頑張ります。 どうぞよろしくお願ひします。

万が一、コロナに感染しても

～みんながコロナ対策をがんばっています。だから…。～

新型コロナウイルス感染に関しては、いろいろな制限が解除されていく一方で、感染者の確認も相次ぎ不安は消えません。今後も、予防対策を継続しなければなりませんし、学校の活動も進めなければなりません。その両立のために、国や県教委、町教委というところから対策の指針が示されていますので、それに沿って進めます。

そんな中で気をつけたいと考えるのは、「もし万が一、感染者が出たとしても、その人を責めたり差別したりすることがないようにしなければならない」ということです。

以前お伝えしたように、各家庭や地域でも努力していただいています。学校も努力しています。そうやって、子ども達が毎日学校に通って来ることができ、いろいろな活動を行うことができます。いまだに、遠出を控えたり、人が集まる場所に行くのも慎重にしている方も多いことでしょう。そうやって努力してがんばっていますが、もし、感染が県内や地区内でも広がったりしたら、予定していた行事ができなくなったり、登校もしばらくできなくなったりするかもしれません。そうなったときに、「〇〇さんが感染したせいだ」などということを子ども達に言わせたくはないと思うのです。ですから、今のうちに心の留め置きたいことは、「どの人々も、感染に気をつけてがんばっている」ということです。県知事さんも発言しておられましたが、まだ、感染者がいない岩手では特に気をつけなければならないと考えます。「みんなが気をつけてきたこと」、まずはその努力してきたことを互いにわかちあえなければならぬのではないかと考えます。万が一のとき、子どもやその家族、教職員もですが、みんなここまでがんばってきたのですから、互いにそのように思うように努力しないといけないという気がします。

「おかげで〇〇の行事ができない」ではなく、「〇〇さんは大丈夫だろうか、症状が軽くてよかった。ご家族には広がっていないだろうか。」という言葉が先に出るような子にしたいと思うのです。

